

日経・東証IRフェア2026 会社説明資料

株式会社 栗本鐵工所

証券コード：5602 東証プライム

- ◆社会インフラと産業インフラを支える会社
- ◆国土強靱化と日本成長戦略が追い風
- ◆安定した業績と高配当



創業者
栗本勇之介

「世の人々にあまねく衛生的で綺麗な水を届けたい」

水道用鋳鉄管から始まった創業者の想いは、
社会インフラ・産業インフラへと領域を広げ、
世代を超えていまでも受け継がれています。



代表取締役社長
菊本一高

1909 創業

創業とインフラの原点

大阪で鋳鉄管製造を開始し、社会インフラの基盤構築に挑戦しました。

1934～

事業の多角化と成長

1930年代に機械分野へ拡大し、鋳鋼やバルブなど関連事業に多角化しました。

1969～

戦後の技術革新と海外展開

高度経済成長期に鋳鉄管技術を進化させ、海外プロジェクトや環境事業に参入しました。

2009～

持続的成長への取り組み

100周年後、グループ強化やM&Aで成長戦略を推進しています。

現在そして未来

四方よし

「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」「未来もよし」を加えた四方よしの精神で、将来にわたって社会へ貢献できる企業グループをめざします。

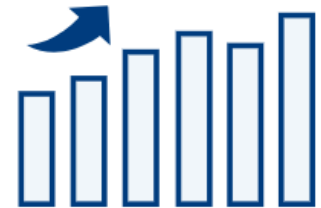
創立
117周年
(1909年2月2日)



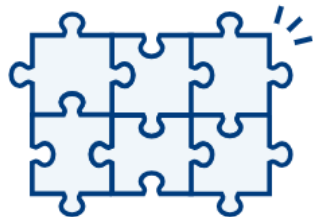
従業員数
連結：2,238人
単体：1,380人



売上高
1,281億円



事業部
6 事業部



事業所・工場
10の営業拠点
13の工場



グループ会社
国内外22社



◆ 2つの事業領域で事業を展開

社会
インフラ

安定性

上下水道、道路、通信、交通など
人・生活において基盤となる施設

売上比率
約**50%**

産業
インフラ

成長性

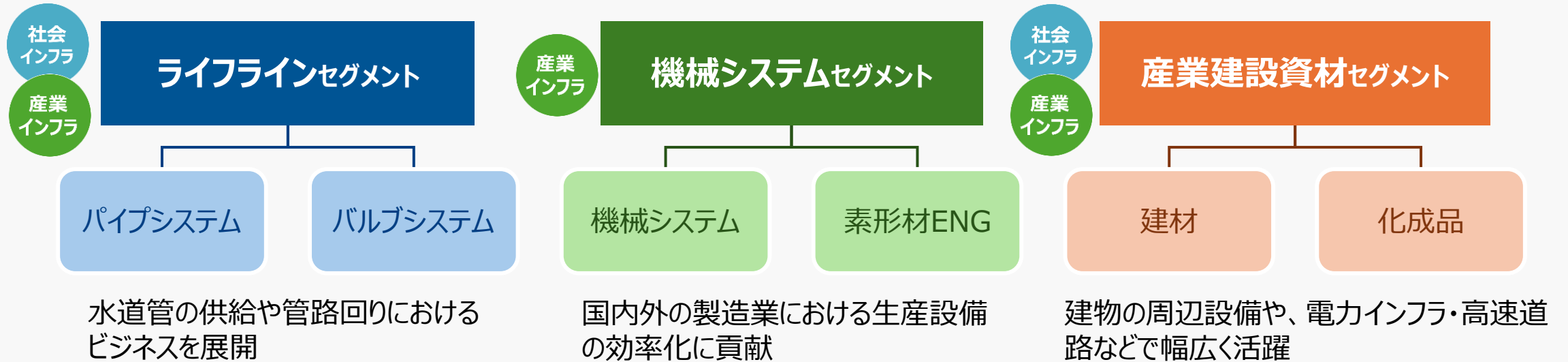
メーカーの生産活動に必要な
機械、プラントなどの製造設備

売上比率
約**50%**

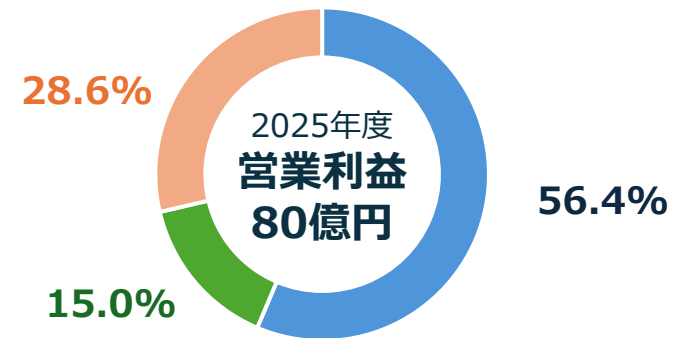
3つのセグメント × 2つの事業部門

◆ 3セグメントおよび6つの事業部門にて構成

クリモトグループ



■ ライフライン ■ 機械システム ■ 産業建設資材



■ ライフライン ■ 機械システム ■ 産業建設資材

社会を支えるクリモト（社会インフラ）

KURIMOTO

社会
インフラ



FRP検査路



円筒型枠



ダクタイル鉄管



FRP(M)管



電力ケーブル保護管



空調用ダクト



ステンレスバルブ

道路資材

農業用水

送電網

オフィスビル

鉄道

下水道

上水道

集合住宅



産業用消音



ブレーキディスク



ダクタイル鉄管



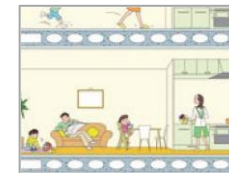
FRP(M)管



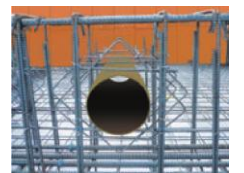
ダクタイル鉄管



ソフトシール弁



中空スラブ



梁貫通孔補強筋

社会を支えるクリモト（産業インフラ）

産業 インフラ



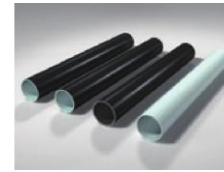
鉱山機械



バタフライ弁 FRP管、ダクトイル鉄管



ベンディングロール



FRPコア



鍛造プレス



搬送装置

資源・エネルギープラント

水力発電所

金属加工工場

フィルム工場

自動車部品工場

砕石場

火力発電所

製鉄所

食品・化学品・電子材・電池等製造工場



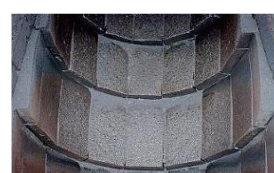
骨材製造プラント 自走式破碎機



バタフライ弁



耐熱耐摩耗铸件



高炉用耐熱铸件



熱風弁



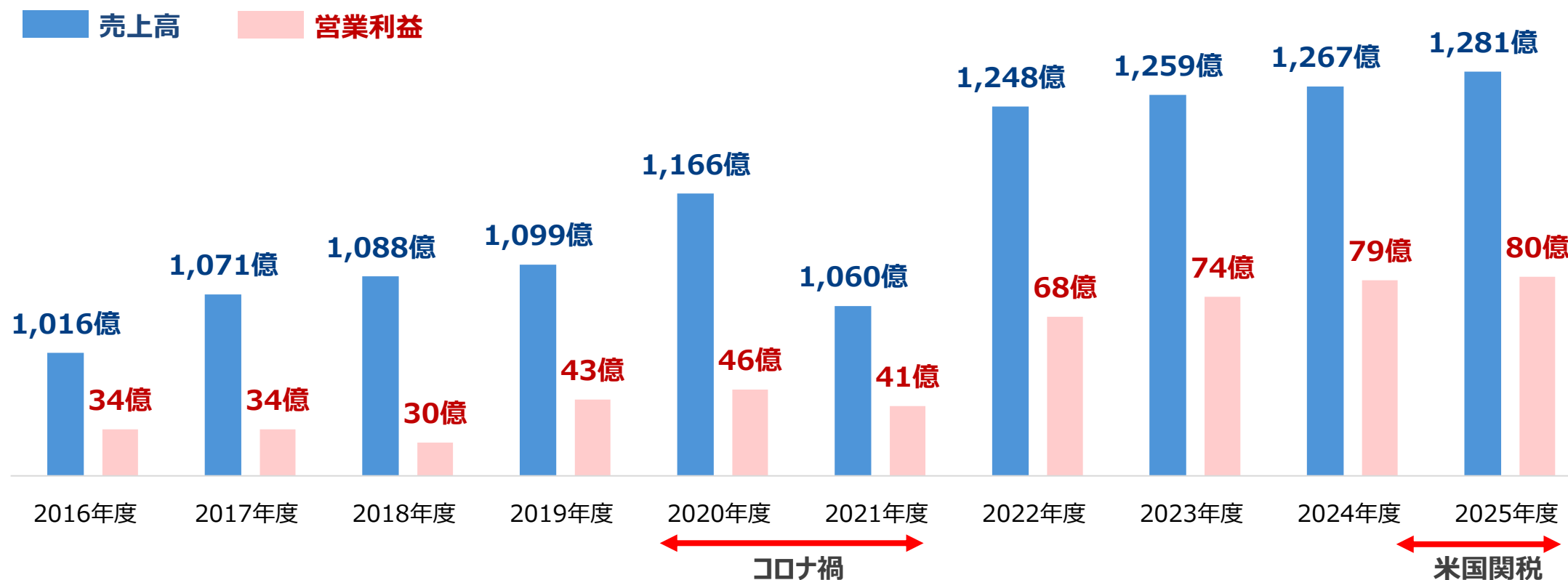
混練機



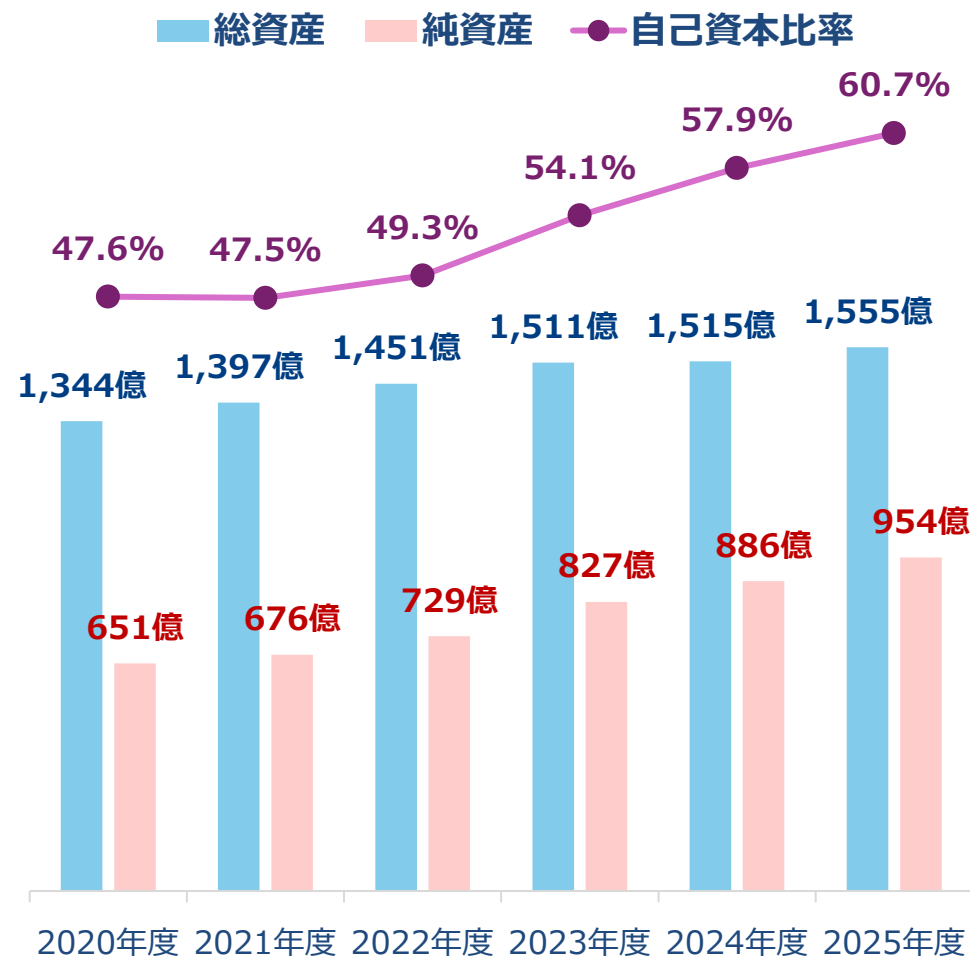
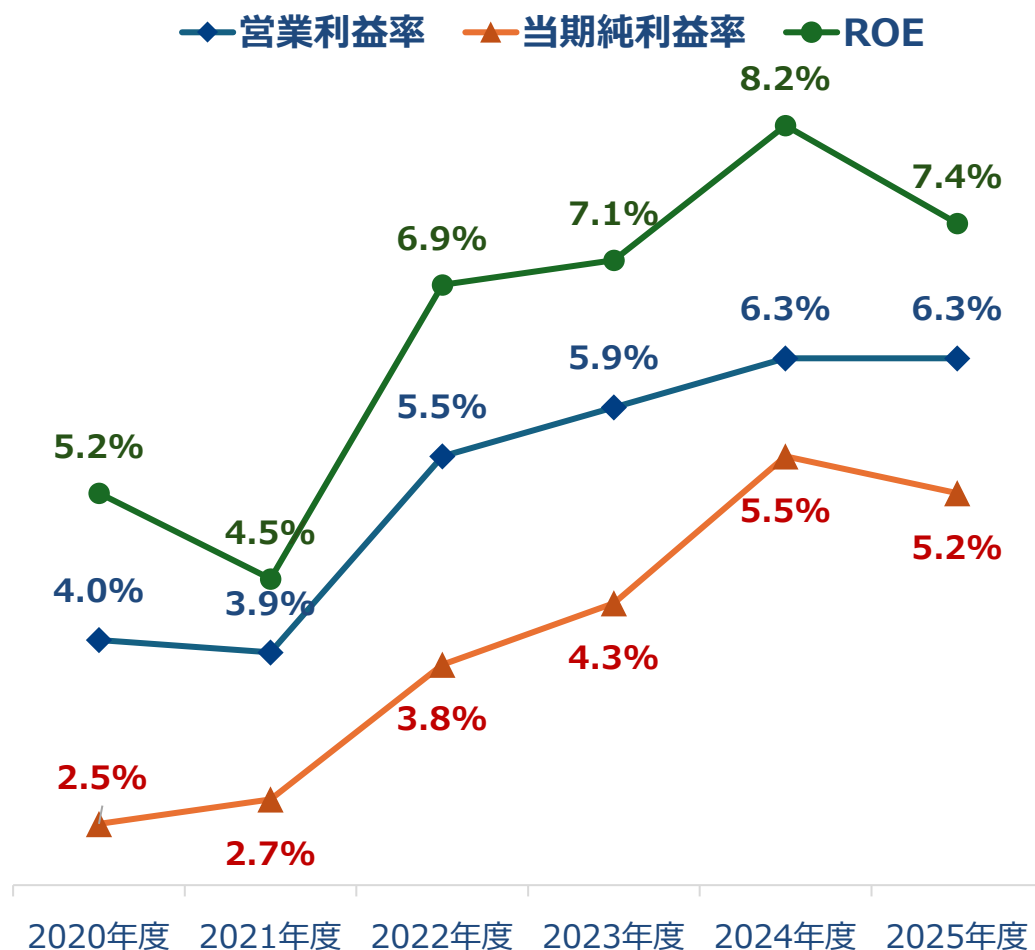
プラントエンジニアリング

業績（売上高・営業利益）の推移

- ◆ 売上高、営業利益ともに着実に成長を続ける
- ◆ 過去10年で、売上高は 26%アップ↑、営業利益は 135%アップ↑
- ◆ 事業の官需民需バランスが良いことから、景気に左右されにくい



- ◆ 営業利益率は順調に推移、当期純利益率とROEも直近年度は低下も中期的には向上
- ◆ 特にROEは直近3年間は7%を継続的に上回り、2024年度は8%超を達成
- ◆ 自己資本比率は60%を超え財務体質は健全、株主還元強化も含め資本政策を見直し中



2026年度 第1四半期は好調、業績予想を上方修正

- ◆ 第1四半期の営業利益は前年同期比67.1%増
- ◆ 通期営業利益の予想を期初予想比+6.3%に上方修正

<連結>

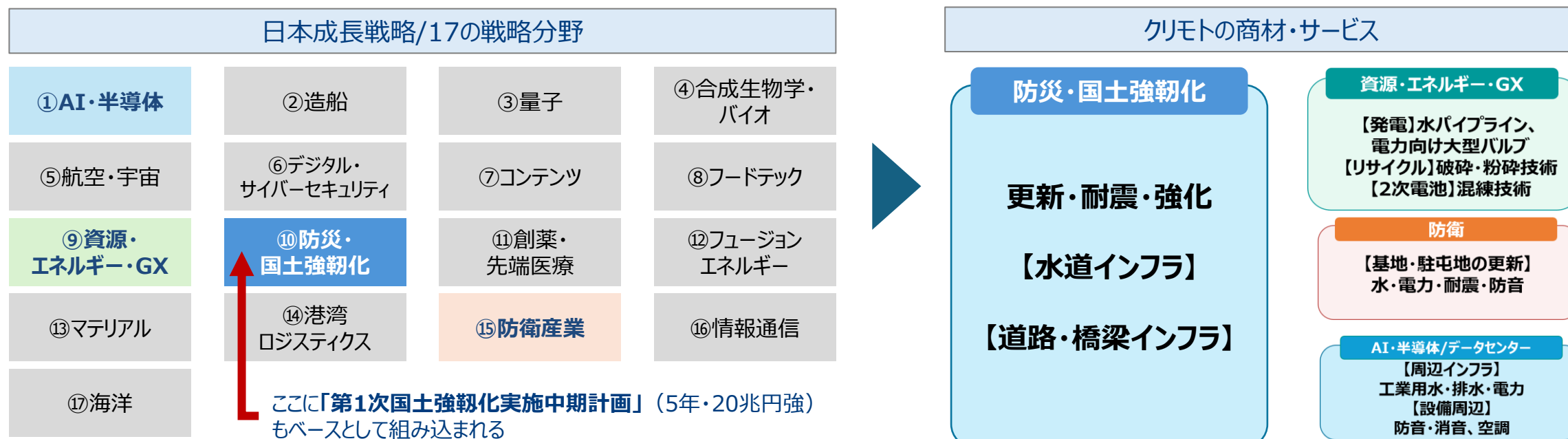
(単位：百万円)

	2025年度 1Q実績 (A)		2026年度 1Q実績 (B)		前年比 (B-A)	増減率	2026年度 修正 上期予想 (C)		2026年度 修正 通期予想 (D)		増減額 (D-C)	増減率
売上高	27,433	-	29,069	-	+1,635	+6.0%	130,000	-	131,000	-	+1,000	+0.8%
営業利益/率	1,099	4.0%	1,837	6.3%	+737	+67.1%	8,000	6.2%	8,500	6.5%	+500	+6.3%
経常利益/率	1,030	3.8%	1,805	6.2%	+774	+75.2%	7,800	6.0%	8,600	6.6%	+800	+10.3%
当期純利益/率	1,559	5.7%	2,284	7.9%	+725	+46.5%	7,200	5.5%	7,500	5.7%	+300	+4.2%

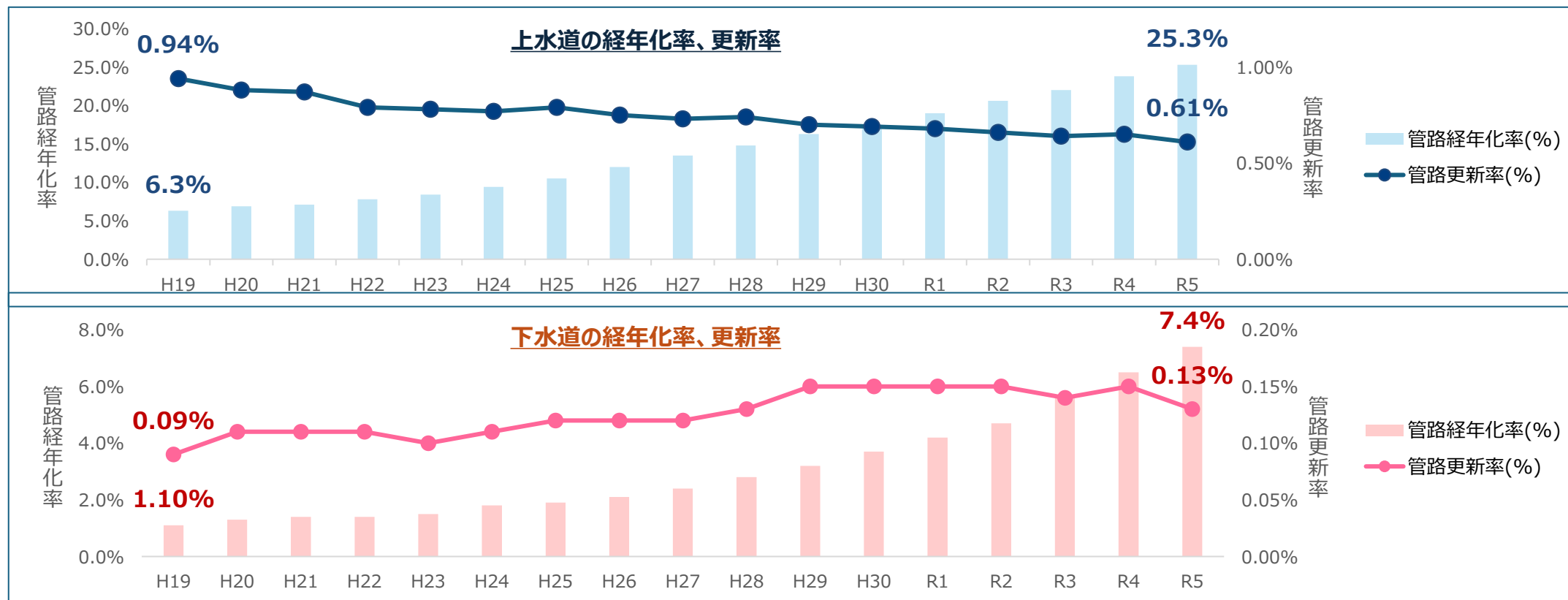
成長領域・戦略

- ◆ 2025年6月閣議決定の「**第1次国土強靱化実施中期計画**」は、防災・減災やインフラ更新を実行する**5年間（2026～2030年度）約20兆円規模の具体的実施計画**
- ◆ 高市政権が2025年11月以降に推進する「**日本成長戦略**」の**17戦略分野（2040年度まで総額370兆円超の官民投資）**においても、防災・国土強靱化は、重点投資領域の一つと位置付けられる
- ◆ 17分野のうち「**防災・国土強靱化**」を中心に複数分野が当社の事業と関連し、成長戦略のターゲットとなる

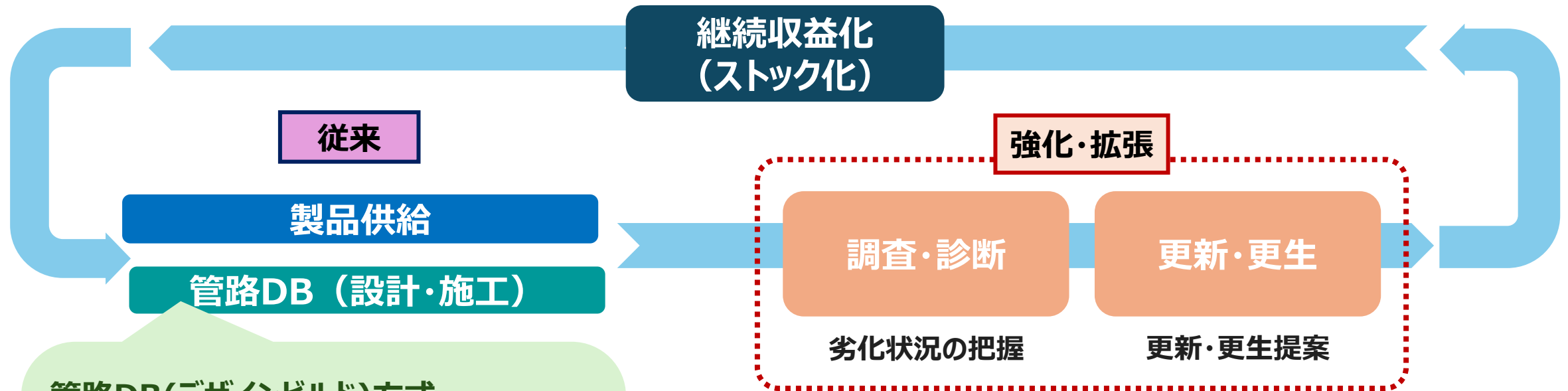
日本成長戦略（最上位戦略）…2040年までに官民で370兆円超を投資



- ◆ 上水道の総延長は約74.6万Km（経年化率は25.3%、更新率は0.61%）
→ 20年後の経年化率は **71% まで上昇**
- ◆ 下水道の総延長は約50万Km（経年化率は7.4%、更新率は0.13%）
→ 20年後の経年化率は **42% まで上昇**
- ◆ 更新が停滞している主要因は、「**財源の不足**」、「**水道事業に携わる職員不足**」など

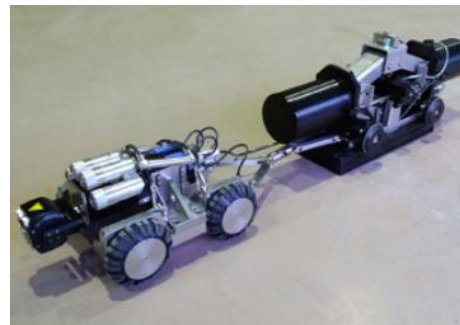


- ◆ 製品供給主体の従来型ビジネスモデルから、調査・診断、更新・更生まで強化・拡張
- ◆ クリモトは「課題解決型ビジネス」、「**安定的・継続した収益（収益のストック化）**」を実現



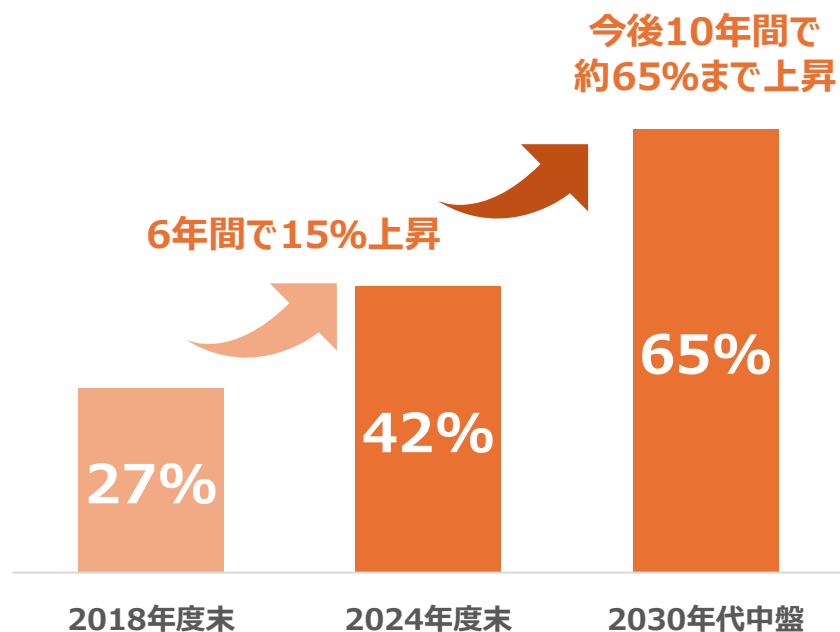
管路DB(デザインビルド)方式

当社を含むJV（共同企業体）で設計から施工まで一括受注することで、**業務効率化、コスト削減、工期短縮**を実現し、水道事業者様の**負担軽減**に貢献。

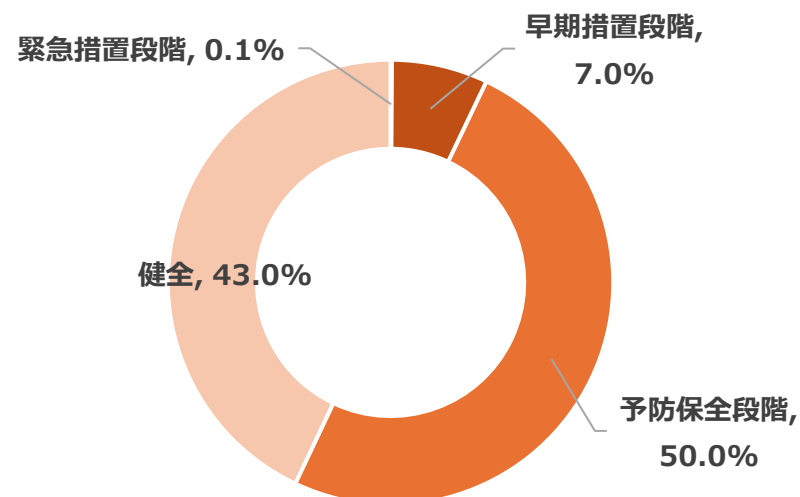


- ◆ 2013年の道路法の改正により、5年に1度近接目視による点検が義務化
- ◆ 2024年度末時点で建設後50年を超えた橋梁は 42%と6年間で15%増加
- ◆ 10年後には 約65% にまで上昇する見込み

建設後50年を経過した橋梁の割合



メンテナンスが必要な橋梁の割合



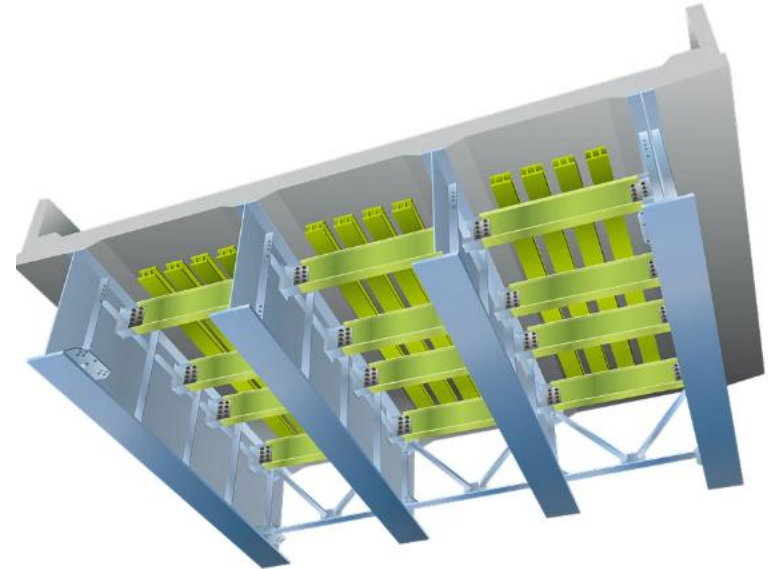
※国土交通省「道路メンテナンス年報 2025年8月」より作成

FRP検査路



- 鋼製検査路と比べて重量が約1/3であり、人力での施工が可能
- 耐食性、耐候性に優れており厳しい環境下でも長寿命

FSグリッド

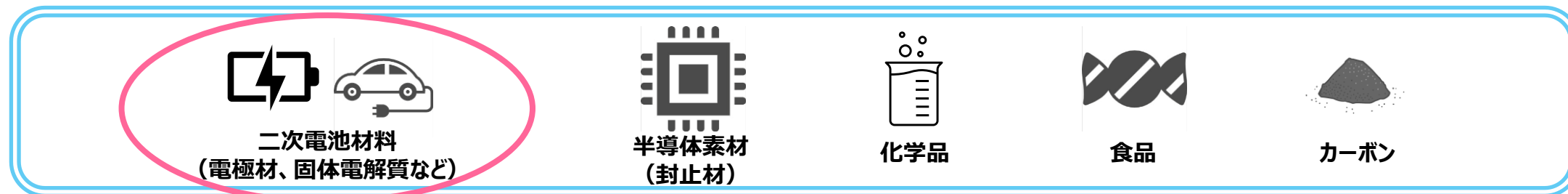


- 道路床版の早期補修、延命工法の導入が加速する見込み
- 交通規制の大幅な低減かつ短期間で工事が可能
- 長期にわたる延命が可能

混練機関連（二次電池等）需要の拡大 ～プロセスソリューション事業への進化～ **KURIMOTO**

- ◆ クリモトの連続式二軸混練機（KRCニード）は多種多様な材料製造プロセスを支え幅広い分野で活躍
- ◆ 二次電池メーカー向けはEV用途は停滞中も、再エネ、電力安定化、データセンターのバックアップ用途の**定置用蓄電池**メーカー向けの需要が拡大中
- ◆ 将来のEV需要復調を見据え、協業による装置単体から高付加価値ソリューション事業への進化をめざす

➤ クリモト混練機の多様なニーズ



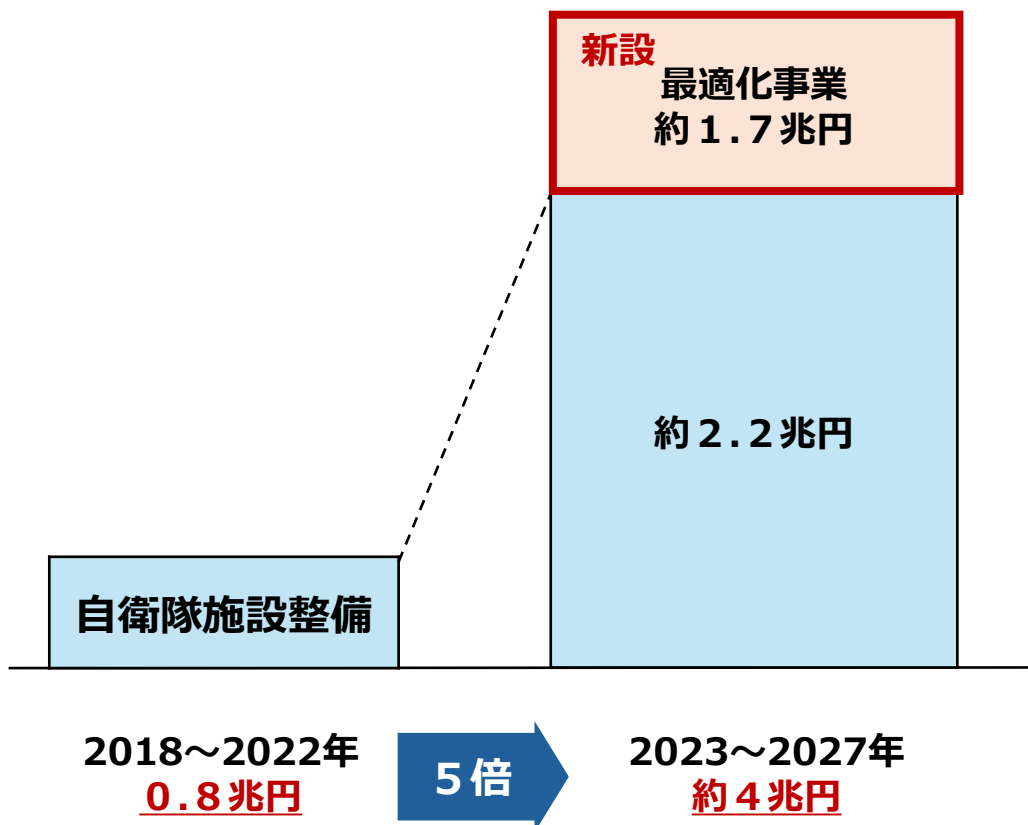
➤ 開発中：混ぜる技術を起点とし、連続生産ライン対応とAI最適化を組み合わせ、材料製造プロセス全体を支える事業へ進化



単体装置から、電池材料づくりを支えるプロセスソリューションへ

- ◆ 自衛隊施設の老朽化が進み、施設の老朽化・耐震化対策が急務に
- ◆ 2023年～2027年の5年間に、前5カ年の予算の5倍、**4兆円**の国家予算が充当される予定

自衛隊施設の強靱化に関する国家予算



<関連商材>

ライフライン (パイプ・バルブ)

水

ダクタイル鉄管



耐震
・更新

非常用貯水槽



貯水槽用緊急遮断弁



機械システム (素形材 E)

解体
・
整備

自走式破碎機



産業建設資材 (建材・化成品)

防音

消音製品



電力

FRPM管



- ◆ 国内データセンター市場は更なる成長が見込まれており、当社も市場拡大の恩恵を受ける
- ◆ 工業用水・下水・電力などの「周辺インフラ」×工場・製造工程に使用される「周辺設備」のニーズの高まりにより、市場の成長スピードを上回る成長を目指す

<関連商材>



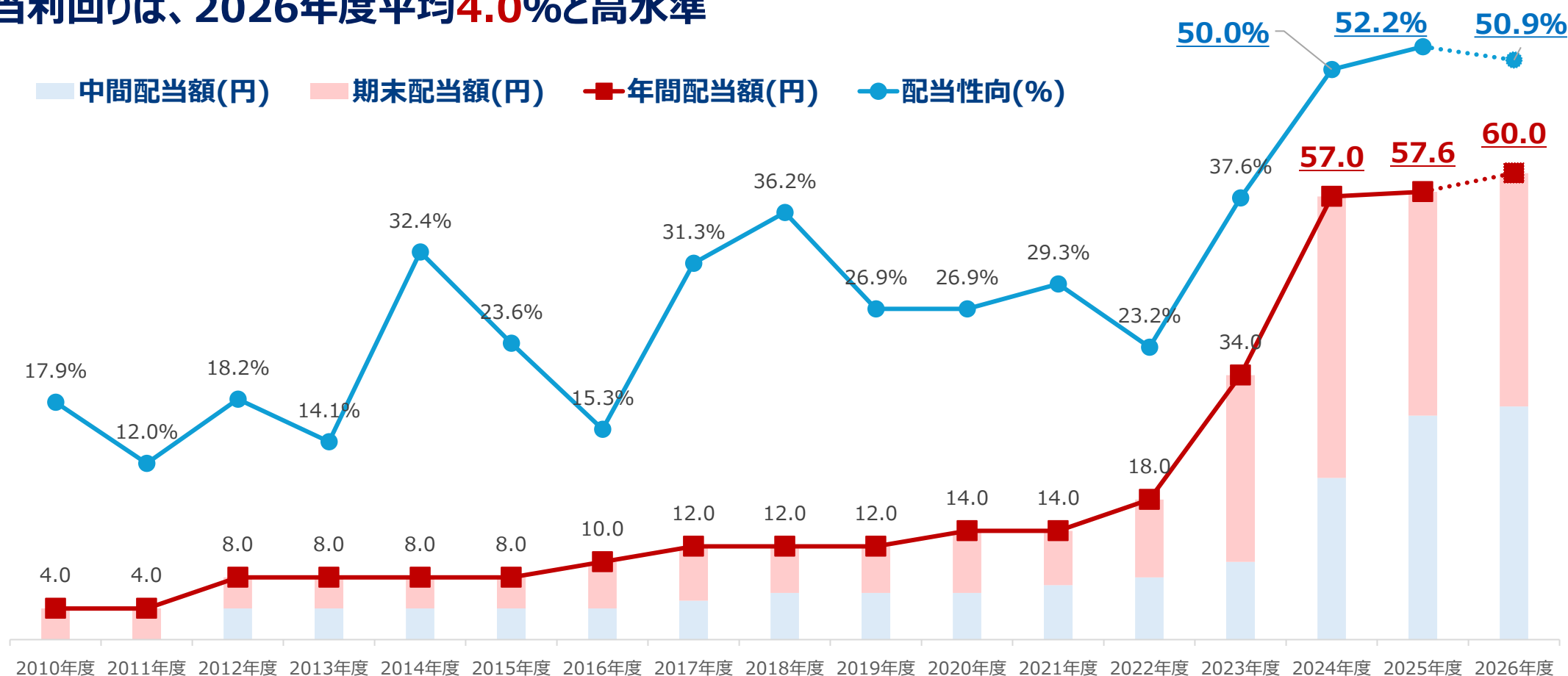
株価・株主還元

- 2025年10月1日に1対5の株式分割を実施しており以降のページは分割後の調整後株価で表記しています

- ◆ 東証市場再編（2022年4月）以降、株価は約 5.5 倍に成長
- ◆ PBRは 1 倍を超えるも、直近 1 倍近辺を推移



- ◆ 資本政策で株主様への還元を重視している
- ◆ 中期3カ年経営計画期間（2024年度～2026年度）は、配当性向50%以上を目標としている
- ◆ 長期にわたり減配はせず、維持・増配を継続
- ◆ 配当利回りは、2026年度平均**4.0%**と高水準



株主還元（自社株買い）

◆ 持続的な企業価値向上に向け次期中期経営計画で目指す資本効率向上を先行的に具体化し、ROE向上と株主価値向上を図る

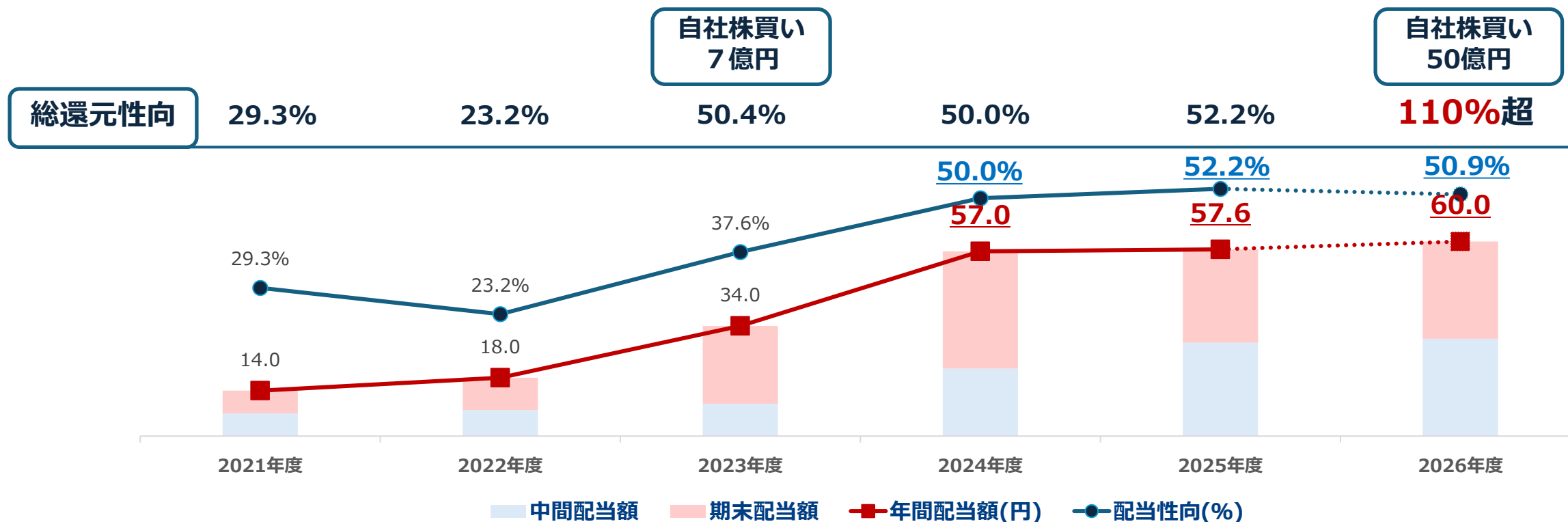
◆ 自己株式を除く発行済み株式総数の5.4%（上限）を取得し、2027年1月29日に消却予定

● 取得する株式の種類：当社普通株式

● 株式の取得価額の総額：50億円（上限）

● 取得する株式の総数：3,500,000株（上限）

● 取得期間：2026年8月7日～2026年12月23日



- ◆社会インフラと産業インフラを支える会社
- ◆国土強靱化と日本成長戦略が追い風
- ◆安定した業績と高配当

株主・投資家情報

<https://corp.kurimoto.co.jp/ir/>



決算短信・説明会資料

<https://corp.kurimoto.co.jp/ir/library/financial-results/>



中期経営計画

<https://corp.kurimoto.co.jp/company/management/strategy/>



統合報告書

<https://corp.kurimoto.co.jp/sustainability/data/report/>



IRに関するお問い合わせ

<https://corp.kurimoto.co.jp/inquiry/ir/>



資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

株式会社栗本鐵工所

総合企画室 IR・SR部

TEL:06-6538-7719

E-mail : ir@kurimoto.co.jp

HPアドレス : <https://corp.kurimoto.co.jp>

KURIMOTO